

ラテンアメリカ現代社会論

試験問題

以下の2つの課題のうち、どちらかを選び、800字以上で説明しなさい。最初にどちらのテーマを選んだか、数字で示すこと。

なお、(a) 文章ないし内容が同一あるいはそれに近く真似ていることが明らかな複数の答案（答案全体ではなく、一部についてそうである場合も含む）や、(b) wikipedia などインターネット上で掲載されている情報をそのまま使用した答案、また(c) 課題と関係のない内容を記した答案は、いずれも0点とする。

1. ラテンアメリカ諸国のほとんどは19世紀の初めに独立する。独立後の共和制時代には、各国が独自の展開をたどるが、他方、ラテンアメリカのほとんどの国に共通した特徴が見られたことも事実である。ラテンアメリカの近現代といえる共和制時代について、5つの時期に分けて、各時期における政治展開の主な特徴を記しなさい。同時に、各時期における経済政策の特徴についても述べなさい。

2. ラテンアメリカの政治は権威主義的な傾向が強い。まず、政治学者フアン・リンスの政治体制の分類に依拠して権威主義を定義しなさい。続いて、パトロン・クライアント関係、ペルソナリスモ、家産制的性格、カウディジヨなど、ラテンアメリカにおいて権威主義的な傾向が強まる背景にある非公式な制度について概略説明しなさい。そして、そうした性格を持つ典型的な例である政党について、なぜ民主主義を支える機能を果たすことができないのか、述べなさい。